参考資料

第1回道路技術懇談会での指摘事項

第１回道路技術懇談会における主な指摘事項

	＜有識者＞	＜業界団体＞
新技術開発・活用の課題について	• 健全な未来、健全な国土をどう形成していくかは国が考えるべき課題。**新材料を取り入れて強靭なインフラを次世代にどう残していくか**。 • ドローン点検で言えばオペレーター、機体メンテナンスなど**ICT関係の技術者が**関わっており、**建設分野に参入してもらえると業界のICT化につながる**。 • 米国はプレキャストの活用が前提。**コストがかかってもプレキャストを使うことがフォルトという意識改革が必要**ではないか。 • 費用の話と技術の話を切り分けて議論できないか。**目先の費用面の議論をしていると土木分野から人材がいなくなってしまう**。 • **優秀な技術者が確保できず土木の魅力が保てなくなってきている危機感**を持ち、打出しを検討すべき。	• 人材が減っており、新技術活用による効率化が求められてる。 • **業界の不満はプレキャストの導入が進まないこと。その最たるものは公共調達の壁**であり、費用は現場打ちの方が安い。 • **安全対策のための新技術の活用は発注者の利益につながらない**。業行政の関連から**そういった技術を評価することができないか**。
今後取り組むべき方向性について	• 人材が減ることが明確である中、**国が将来に向けて新技術を取り入れる姿勢を示していく**必要。 • 費用面のリクワイヤメントには**ライフサイクルコストも含めて整理**すると技術の掘り起こしにつながる。 • **受注者が新技術を使うことを正しく評価するような仕組み**が大事。 • 点検の1次スクリーニングは全て機械でやるなど、**思い切ったことを受け入れる空気感があるとよい**。 • 地方で新技術が取り入れられるようにする必要。	• 道路局が新技術について前向きなメッセージを出すことが重要。 • 現場で**新技術を活用しようとする者にメリットがあるような仕組みが必要**。 • 技術活用のため、**人手不足、安全性向上、生産性向上など、コスト以外の新しい価値観を取り入れていく必要**。 • **技術開発を行うメーカーに業界に入ってきてもらえると人材不足の対応**にもなる。